



みどり



95号『高齢者と肺炎②』

2016年2月1日発行／編集責任者 田中 眞／毎月1日発行／群馬県藤岡市篠塚105-1
<http://www.shinozuka-hp.or.jp/center/>

今月は、高齢者に多い肺炎として、肺炎球菌感染による肺炎とその予防について紹介します。

肺炎球菌とは？

肺炎の原因となる細菌には様々な種類がありますが、日常でかかる肺炎の原因菌で最も多いのが「肺炎球菌」で、約30%を占めます。

肺炎球菌は鼻や咽頭などの上気道に定着しやすい細菌の一つで、主に小児から分離されます。健康な成人から分離されることは少ないとされますが、感染者の咳やくしゃみ等から飛散するしぶきを通じて感染します（これを「飛沫（ひまつ）感染」といいます）。このとき気道の防御機能が低下していると、菌が気管や肺へ侵入し炎症を引き起こします。

肺炎球菌感染による肺炎は季節を問わず、どの世代でも発症します。しかし高齢者では抵抗力の低下から重症化しやすく、入院での治療が必要となる割合が若年者と比べて増加します。

肺炎を予防するには？

肺炎の予防には、肺炎の原因となる病原微生物を体内に侵入させないことが肝要です（表1）。

表1. 肺炎を予防するために

- ◎ うがい、手洗い、マスクの着用
- ◎ 気道の防御機能を高める
- ◎ 予防接種を受ける：
インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン

1) 手洗いとうがいをしっかり行うことが大切です。マスクは鼻から顎の下までしっかり覆うようにしましょう

2) 気道の防御機能は、先月号で紹介したように、喫煙、環境要因（寒冷、乾燥など）、慢性疾患への罹患で低下します。禁煙、生活環境の整備、持病の治療に努めることは免疫力を高めることに繋がります。

3) ワクチンの接種によって感染や重症化を予防できる病原微生物に、インフルエンザと肺炎球菌があります。

インフルエンザをこじらせて肺炎になることがあります。これは、ウイルス感染による上気道の炎症により気道の防御機構が破綻し、細菌が下気道に容易に侵入しやすくなるためです。したがって、流行期にインフルエンザワクチンを接種することは肺炎の予防に繋がります。

肺炎球菌ワクチンについて次項で紹介します。

肺炎球菌ワクチンとは？

肺炎球菌ワクチンは、肺炎球菌による肺炎などの感染症に対する予防効果があります。肺炎球菌は、小児、成人において肺炎だけでなく、中耳炎、髄膜炎や敗血症などの「肺炎球菌感染症」をきたします。肺炎球菌ワクチン接種によってこれらの感染症への罹患を予防する効果も期待できます。以下に該当する方は、肺炎球菌

ワクチンの接種が勧められています。接種時期は季節を問いません。

は公費の補助があります。これらに該当しないワクチンは「任意接種」の扱いになります。

表 3. 肺炎球菌ワクチンの接種が望ましい方

- ① 65 歳以上の方
- ② 長期療養施設などに居住されている方
- ③ 慢性疾患に罹患されている方
呼吸器疾患（COPD など）
慢性心不全
慢性腎臓病（腎不全、人工透析を受けている方、など）
など
- ④ 機能的または解剖学的に脾臓の無い方

表 4. 肺炎球菌ワクチンの定期接種対象者

- ① 平成 27 年度から平成 30 年度までの間：該当年度の間に、65 歳、70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、100 歳になる方
※平成 31 年度以降は 65 歳の方のみ対象
- ② 接種時 60 歳以上 65 歳未満で、心臓・腎臓・呼吸器の機能障害、またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能の障害をお持ちの方で、身体障害者手帳 1 級を所有している方、または、上記の障害で身体障害者手帳 1 級と同等と判断された方
- ③ ①、②に該当し、かつ過去に成人用 23 価肺炎球菌ワクチン（商品名：ニューモバックス®NP）を接種したことがない方

このように、肺炎球菌ワクチン接種の重要性が増す中、平成 26 年 10 月 1 日から、肺炎球菌ワクチンが定期接種の対象となりました。

肺炎球菌ワクチンの定期接種とは？

これによりワクチン接種費用の一部が公費で負担されることとなります。ワクチンは、お住まいの自治体の指定する医療機関で接種することができます。ただし、定期接種の対象となる方は表に示した方となります。また、ワクチンの接種は義務ではなく、あくまで本人の希望により行われます。

肺炎球菌は、菌体を覆う膜（莢膜）の免疫原性、すなわち血清型により 90 種類以上に分類されます。これらのうち、肺炎球菌感染症の原因菌として頻度の高い血清型を標的にしたワクチンが開発されています。肺炎球菌ワクチンの価数はワクチンに含まれる血清型の数を示します。現時点で、23 価と 13 価の肺炎球菌ワクチンが成人に使用可能です（13 価は 65 歳以上のみ）。

対象年齢に該当しない方、過去に成人用 23 価肺炎球菌ワクチン（ニューモバックス®NP）を接種したことがある方は定期接種の対象になりません。また現制度では、表に示した該当年齢内に接種しなかった場合、次回の対象はありません（長期療養を要する疾患に罹患して接種できなかった場合は特例があります）。このような場合でも、任意でのワクチン接種が可能です。

肺炎球菌ワクチンの選択や予防接種の法的区別（定期もしくは任意接種）は、年齢や過去のワクチン接種歴によって決定されます。

* * *

ワクチン接種の主な副反応として、注射部位の疼痛、発赤、紅斑、硬結といった局所反応がありますが、通常 2〜3 日で治まります。接種後に気になる症状や体調変化があった場合には医師にご相談ください。

* * *

予防接種には「定期接種」と「任意接種」があります。「定期接種」とは、国が予防接種の必要性が高いと認め、法律でワクチンの種類、対象者、接種期間などを定めています。接種費用

* * *

次号は誤嚥性肺炎を紹介します。
(文責：金子 由夏)